

前期のみどころ1 高野山の祖師と神々

高野山は、弘法大師空海が弘仁7年（816）に開いた、真言密教の道場です。

弘法大師像・四社明神像【写真1】は、祖師である弘法大師と、地主神の丹生明神をはじめとする四社の祭神とを、対であらわしています。弘法大師像の上下に描かれるのは高野山の景観です。下が高野山の中心となる壇上伽藍、上は弘法大師が今も永遠の瞑想を続けているという奥之院、この二つの場所が、高野山の二大聖域です。

【写真1】

重要文化財 弘法大師像・四社明神像 金剛峯寺蔵



四社明神像



弘法大師像

前期のみどころ2 高野山の名宝が県博に！

弘法大師空海は、中国の唐に留学して真言密教を学び、その教えを日本にもたらしました。本展では、高野山の名宝を展示いたします。

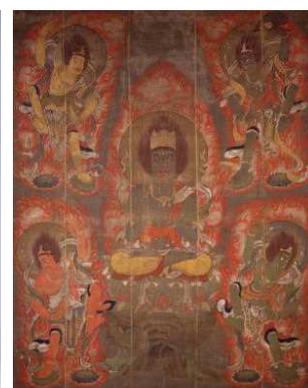
【写真2】は、高野山の教学の拠点である勧学院の本尊として安置されていた大日如来像です。本像の制作は平安時代にさかのぼり、厳かで優美な姿をしています。

【写真3】は、高野山の子院、北室院に伝わる五大菩薩像です。仁王会という法会の本尊で、北室院では今も毎年この像を懸けて仁王会をおこなっています。本展は貴重な公開の機会となります。



【写真2】

重要文化財
大日如来坐像
(旧 勧学院本尊)
金剛峯寺蔵



【写真3】

重要文化財
五大菩薩像
北室院蔵

前期のみどころ3 丹生都比売神社の営み

高野山開創にあたり、空海は丹生明神と高野明神を山上の伽藍に勧請しました。丹生明神の本社は、山麓の丹生都比売神社です。

丹生都比売神社の営みは高野山と常に深く関わっており、さまざまな資料からその様子がうかがわれます。

【写真4】は鎌倉時代（狛犬）と室町時代（師子）の遷宮などの造営においてつくられたとみられ、社殿の前に構えるように安置されていました。

【写真4】

重要文化財 師子・狛犬 1対 丹生都比売神社蔵



師子



狛犬

みどころ4 常設展も衣替え！コーナー展示「弘法大師と高野山の開創」開催

この特別展の前期期間中、常設展示室「空海と高野山」・「熊野詣」のコーナーにおいて、弘法大師空海や高野山に関わる資料12件23点を展示します。